

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 112

事務事業名	可燃物収集事業
-------	---------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	市民環境部		
課名	環境センター		
課長名	濱崎 賢二	内線	54-3100
担当者名	本川 健二	内線	54-3100

基本目標		機能的で環境と調和したまち
政策	050403	環境にやさしいまちづくり
施策		ごみの減量化と適正処理の推進
関連施策		

会計	一般会計		
款	4	衛生費	
項	2	清掃費	
目	2	清掃総務費	
事業コード	020100	ごみステーション化推進事業	

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者)	誰(何)に対して事業を行うか			家庭から排出された「燃やせるごみ」		
意図	対象をどのような状態にしたいか			家庭から排出された「燃やせるごみ」を、生活環境の保全上支障がないよう収集し、環境センターへ運搬した後、焼却処理する。		
事業概要	意図を達成するために実施することは何か			家庭から排出された「燃やせるごみ」を、収集車で収集運搬する。		
事業期間	年度 ~ 平成 年度		実施方法	直営、委託		
根拠法令、要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、大村市廃棄物の処理及び清掃に関する条例、一般廃棄物処理基本計画					
国・県補助事業に係る本市単独施策	無					

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考
活動指標	① 可燃物収集台数	計画値	10,338	9,960	9,926	9,805	平成28年度収集見込台数(過去3か年の平均値)
		実績値	9,903	9,835	9,678		
	直営収集台数+委託収集台数	達成度	95.8%	98.7%	97.5%		
		計画値					
成果指標	① 可燃物収集量	計画値	14,707	14,476	14,313	14,071	ごみ処理基本計画目標値
		実績値	15,493	15,590	15,582		
	直営収集量+委託収集量	達成度	105.3%	107.7%	108.9%		
		計画値					
②	実績値						
	達成度	%					

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	71,870	83,533	79,848	79,318	107,016	107,016	107,016	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債					7,100			
その他								
一般財源	71,870	83,533	79,848	79,318	99,916	107,016	107,016	
② 人件費(千円)	69,671	43,217	40,078	41,254	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)	8.55	5.55	5.55	5.55	燃やせるごみの収集運搬業務	燃やせるごみの収集運搬業務	燃やせるごみの収集運搬業務	
時間外勤務(時間)	862	638	467	447				
嘱託等人数(人)								
フルコスト(①+②千円)	141,541	126,750	119,926	120,572				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

事業の進捗状況 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	衛生的な生活環境保全のため、年末を含む7日/年の休日収集を実施している。契約期間の終了に伴い、「松原、三浦・その他コース」の新たな委託を行った。
事業が抱える問題・課題等	市内全人口が増加しているため、「燃やせるごみ」の収集量が増加傾向にある。塵芥車の老朽化が進み、故障が多発している。

妥当性	【必要性】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	家庭から排出される「燃やせるごみ」を収集することにより、生活環境の保全に資する。						
有効性	【市の関与】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	家庭から排出される廃棄物については、市の責任で処理しなければならない。						
効率性	【事業成果】	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	週2回の収集を継続して行っており、生活環境の保全を図っている。						
効率性	【コスト】	削減の余地なし	削減の余地あり			該当なし	
	収集体制については、7コースのうち5コースを民間委託しているが、更なる委託を検討している。						
効率性	【負担割合】	見直しの余地なし	見直しの余地あり			該当なし	

※事業類型が1~3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	拡充	
--------	----	--

内容 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	市民、事業者の協力による分別排出の推進を行うことにより、燃やせるごみの収集量を減らす。平成29年度に大村A、竹松コースを再委託することになるため、委託金額の増額が見込まれる。また、直営の西大村Bコースを民間委託する予定であり、新たな委託費が必要となる。現在使用している塵芥車の老朽化が進み、故障が多発し、業務に支障をきたしている。危機管理対策としても新たな車両の購入が必要である。購入した塵芥車は将来的に全庁で使用できる車両として活用する。
効果 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	直営から民間に委託することで、収集運搬全体のコスト削減が図られる。購入する塵芥車を将来的に共用車として利用することで、有効活用が図られる。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等	収集コスト削減のため、民間活用は必要なことである。塵芥車の購入についても危機管理上必要と考える。		内容		

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。